

国際的に流行する兎出血病ウイルス 2 型による 兎出血病の国内初発例

兎出血病（RHD）はカリシウイルス科ラゴウイルス属の RHD ウイルス（RHDV）によっておこる伝染力の強い兎の急性致死性感染症です。2010 年にフランスで報告された新しい遺伝子型に分類される RHDV (*Lagovirus europaeus*/GI.2/RHDV2/b、以下 RHDV2) が、従来型 RHDV を置換して世界で蔓延しています。2019 年に国内で 17 年ぶりに発生した RHD について検査した結果、RHDV2 による国内初発例であることが確認されましたので、その概要をご紹介します。

☆ 技術の概要

1. 発生施設では 1-2 歳齢の兎が 2 週間で 10 羽死亡し、解剖では肝臓の退色と脆弱化、複数臓器の出血及び血液凝固不全がみられました。病理組織学的検査では、肝臓で小葉の辺縁部を中心とした肝細胞の変性・壊死が共通して観察されました（図 1）。
2. ウイルス学的検査では、肝臓から RHDV 遺伝子が検出されました。カプシドタンパク VP60 遺伝子の部分配列に基づく分子系統樹解析により、本症例の原因ウイルスは過去の国内発生例とは異なる RHDV2 に分類されました（図 2）。

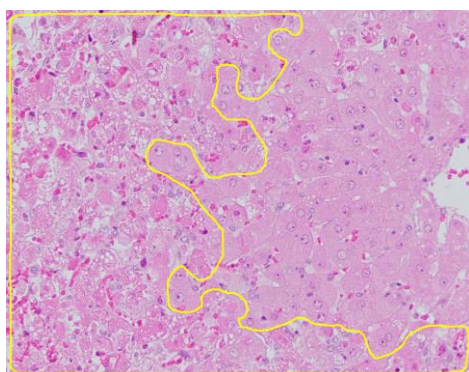
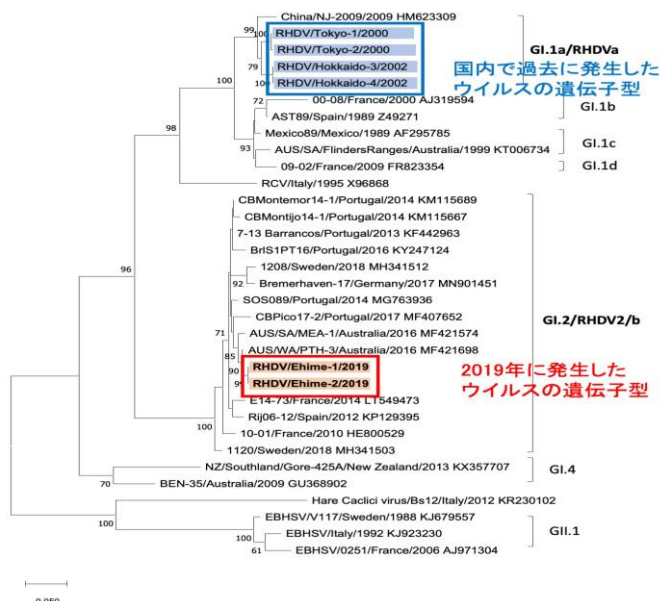


図 1（↑）肝臓の小葉辺縁部を中心とした肝細胞の変性・壊死（黄枠内）。

図 2（→）2019 年の原因ウイルスは従来型とは異なる RHDV2 のグループに属した。



☆ 活用面での留意点

1. 典型的な病変は従来型と同様であるため、鑑別にはウイルス学的検査が必要となります。一方、RHDV2 はノウサギ属にも感染し、全年齢で発症する点が従来型と異なります。今後の感染拡大に注視が必要です。
2. 詳しくは、農研機構「お問い合わせ窓口」(<https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>)までお問い合わせください。

（農研機構 動物衛生研究部門 衛生管理研究領域 三上 修）